静商同窓会 中部支部だより

第 15 号
27 年 4 月 1 日

（ご挨拶）　本部との関係・年会費の改定について　　第 58 回 (32 年卒) 支部長　坂本周造

先日、本部の組織委員長といろいろ話しましたが、本部では中部支部の様子に大変興味がありその結果についてよく見ているようです。今後は本部との関係を今少し密接にしたいと考えています。例えば、本部の定時総会に出席するのかどうかです。考えてみれば本部の定時総会に出席するのは、当然のことのように思いますが、中部支部は独自の方法でやってきたので、これには出席していませんでした。しかし、本部では支部とのつながりを真剣に考えているので、出席するようにしたいと思います。これからは、本部でどういうようなことをやっているのかとか母校や故郷の動きなどに、中部支部も関心を向けて歩みたいと思います。

ところで年会費についてですが、これまでは 1000 円頂いていましたが、これを 28 年度から 2000 円にしたいと思っています。これは主として本部との交流を深めるための必要経費（定時総会出席・総代会出席等の交通費）に充てる予定です。なお、この件は総会に諮ったうえで決めさせてもらうつもりです。

＊今年の「総会・懇親会」について　**27 年 5 月 16 日 (土) 17 時 30 分開催**

詳細は同封した案内状をご覧下さい。1 年に 1 回の機会です。昨年同様多数の同窓生が集い「波メロディ」を熱唱しましょう。是非ともご参加頂きたくお待ちしています。

ご存知でした？花火大会の発祥は静岡　　第 52 回 (26 年卒)　小林重夫

日本で最初に花火を鑑賞した人は、通説として徳川家康が慶長 18 年（西暦 1613 年）にイギリス国王使節ジョン・セーリスが駿府城を訪れた時、中国人を使って安倍川で花火を見せたという記録が「駿府政事録」等に記述が残されている。当時の花火は今日の打ち上げ花火と異なり、竹筒から火の粉が噴き出すだけの単純なもので、これを機に三河の砲術隊に鑑賞用の花火を作らせたのが日本の花火の起源になったとのこと。また、三河地方に花火造りが多いのもこれが発祥の元といわれています。その後享保 17 年 (1732 年) に疫病や飢饉の流行があり、徳川吉宗が墨田川河畔 (大川端) で川施餓鬼 (死者の霊を弔う法会) を催し、翌 18 年より慰霊と悪病退散を祈願する目的で両国の川開きと水神祭りを行ったといわれています。

（花火アラカルト）

①世界初の花火：西歴 1307 年イタリア（フィレンチェ）のスコッピホデル・カツロの復活祭で、中国から輸入した火薬で火の山車が造られ祝ったのが世界初といわれています。

②世界最大の花火：江戸時代は橙一色が、明治に入ると塩素酸カルシュウムやストロンチュウム・マグネシュウム等の彩色光剤が輸入で手に入るようになり、いろいろな彩色の花火が出来、昭和 60 年には新潟の「片貝まつり」で 4 尺玉（直径 120 cm）が打ち上げられ世界最大の花火と認定されるまでになっている。

③未確認情報：西暦 1589 年に伊達政宗が花火を見たとの文献が発見されたという情報があるが、公開されていない。